

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2017年 10月

「この日を神と共に」「あなた宛の神の手紙」「清めの特別な働き、罪の除去」「キャロブ・パー」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

### 今月の聖書勉強

「あなた宛の神の手紙 (I)」

4

聖書の教え

### 朝のマナ

「この日を神と共に」

8

This Day with God

### 現代の真理

「清めの特別な働き、罪の除去」

40

清めの特別な働き

### 力を得るための食事

「キャロブ・バー」

48

### お話コーナー

「安息日遵守」

50

イエスの物語

#### 教会

##### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

##### 【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

##### 【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス [www.4angels.jp](http://www.4angels.jp)

メール [support@4angels.jp](mailto:support@4angels.jp)

発行日 2017年9月29日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on Front page, Dreamstime on pages 8, 40, 50

## 神のタイミングの知恵

—今日、何を?—

神は、熱心にもとめる者にはいつでもみ言葉の真理を現わそうと望んでおられるのである。「隠れた事はわれわれの神、主に属するもの」であるが、「表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属する」のである(申命記 29:29)。聖書のある部分は理解できないという考えのために、最もたいせつな真理まで省みられなくなっている。聖書の神秘は、神が真理をかくそうとしているからではなくて、人間が愚かさや無知のために真理を理解してわがものとすることができないからだという事実を、くりかえし強調しなければならない。制限は神のみどころではなく、それはわれわれ自身の能力の問題である。理解できないものとして見過ごされがちである聖書のある部分でさえも、神は、われわれの心が受け入れられるだけのことを悟るように望まれる。

聖書はわれわれが、「あらゆる良いわざに対して十分な準備ができ」るように、「神の靈感を受けて書かれた」のである(テモテ第二 3:16)。(教育 202)

「目を覚まして、祈っていないさい」とはわたしたちの贖い主から与えられた命令である。日々わたしたちは神の御霊の啓発を求めなければならない。それはわたしたちの魂と品性にその働きをなしていただくためである。(ビュー・アンド・ワールド 1892.3.29)

彼らは日々神の御許へ行き、熱心にわたしたちの現在の義務を知ろうと望む代わりに、先々を望み、自分たちの計算をし……日々神に自分たちの義務を尋ねることをしないのである。(ヘクテッド・メッセージ 1 巻 188)

わたしたちの義務はある特別な時に、ある特別な働きがわたしたちのためになされることを待ち望むことではなく、世を警告するわたしたちの働きに出ていくことである。なぜなら、わたしたちは地の果てまでキリストの証人となるべきだからである。(ヘクテッド・メッセージ 1 巻 189)

聖書は絶えず神の民に開いている。これまで、これから各時代に特別にあてはまる真理がある。ノアに与えられたメッセージは当時の現代の真理であった。そしてもし人々がそのメッセージを受け入れていたなら、彼らは洪水の水を飲むことから救われたのである。さて、ある人が「わたしたちには父祖たちが持っていたすべての真理がある。これ以上は望まない」と言ったとしよう。そして、天の神が、ニネベの人々に送られたように彼らにメッセージを送られたとする。結果はどうであろうか。もしニネベの人々が悔い改めなかったならば、彼らにとっても同じ結果になったことであろう。彼らに宣告は下されていた。しかし、彼らの悔い改めが彼らを救った。わたしたちは、誤った者が真の魂の悔悟をもって神に帰るとき、威嚇された悪を思い返される神がおられることを、どれほど感謝すべきであろうか。(ビュー・アンド・ワールド 1886 年 6 月 29 日)

## 第1課 あなた宛の神の手紙

### 天の誓い—わたしたちの保証

人生のある時期に、人は人生における自分の存在と目的を問うようになります。若い思いはたいてい将来に希望と大志を抱いています。不満な人あるいは失望した人は、人生の目的や理由を見出すことを難しく思います。その結果、孤独、空虚、不幸な人々がいます。あなたの人生はどのようにしたらもっと充実した、健全で、興味深いものとなることができるでしょうか。死後に待っているのは何でしょうか。永遠の命を受けることは可能なのでしょうか。人生のすべての歩みにおいて人の心は不確かなことを問いながら、なお安全と満足という自分たちの必要を満たす答えを望んでいます。まちがいに皆さんの思いの中にも時々こうした疑問が浮かぶことでしょう。人生の命に関わることについて答えはあるのでしょうか？どこでそれらを見出すことができるでしょうか？わたしたちはみな何らかの信条や考えを持っているものですが、それらはどれくらい正確でしょうか？聖書ほど、これらに対する答えとまたその他多くの基礎的な問題を明らかにしている書物は他にありません。聖書はどのように人生を生き、最大限に享受できるかを明らかにしています。これは約束です。

#### 聖書を記したのはだれか？

ある批評家たちは、聖書は普通の人々によって書かれた一冊の書物であり、したがって他の本と何も変わらないと主張してきました。主張の前半に関しては一部は真実ですが、後半は誤りです。たしかに、この書物は人によって記されましたが、彼らにはほとんどの著者たちとは異なる一つの特徴があります。

「……人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである」（ペテロ第二 1:21）。

神はご自分のメッセージを執筆するための義人を選びました。彼らは生まれつき独創的な著者だったのではなく、聖霊によって出来事やメッセージが彼らに

明らかにされ、靈感が与えられたときに、それらを記録したのです。幻や思想を受け、聖なる人々が、これらが神から来たものであることを知って、忠実に自分自身の言葉で示されたことを記したのです。

この結果、聖書には多岐にわたる形式や表現がありながら、矛盾はないのです。著書の編纂（へんさん）を通じ一貫して、共通の主題と信仰の一致があります。

「主の霊はわたしによって語る、その言葉はわたしの舌の上にある」（サムエル記下 23:2）。

だれ一人として、神の助けを受けることなく、神の聖なるメッセージを書き記すことを委ねられた人はいませんでした。実際には聖書は多種多様な働きを含んだ出版物であり、その真の著者は全能者です。これらの聖なる著書のすべてを通じて、もしわたしたちが神の備えと勧告を受けるならば、罪とその結果からの救いがその主題です。

「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にとのえられた者になるのである」（テモテ第二 3:16, 17）。

聖書はまたわたしたちに神とその麗しいご品性を教えています。「聖書を調べなさい。あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」（ヨハネ 5:39）。

## 区分け

66 冊の書物が、40 人近くの著者によって、およそ 1600 年間かけて記されました。旧約聖書として知られている部分は 39 書から成り、27 書で新約聖書が構成されています。イエスが聖書に言及されたときは、旧約聖書を引用されました（新約聖書はまだ記されていなかったのです）。

旧約聖書には大きく三つの区分けがあります。イエスは、「……わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」（ルカ 24:44）。

「モーセの律法」は、聖書の最初の 5 書を指しています。それらはモーセによって記され、しばしば「律法」として言及されています。なぜなら、そこには昔のイスラエルに与えられたすべての律法が含まれているからです。礼典律は、象

徴的なもので十字架の時に終了しました。しかし、「モーセ」の書には単に礼典の制度をはるかに超えたものがあります。主としてそれは地上の神の教会を設立した教理や諸原則から成っています。第一に神ご自身より与えられた道徳律があり、それから、自然の法則、健康、秩序と組織の教理があります。

「預言書」は、すべての預言の書を指しています。他の分類に入っている書物にも一部預言的な部分がありますが、特定を容易にするために、各書物は一つのカテゴリーにのみ分類されています。例えば、イエスは復活後にエマオへの途上にあつた二人の弟子たちと語られたとき、この種類の用語を用いられました。「こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかさされた」（ルカ 24:27）。

聖書の信憑性について、最も説得力のある試金石の一つは預言の証拠です。なぜなら、真の預言はあらかじめ記された歴史だからです。聖書の預言の多くはそれが成就する何百年も前に記されました。他の預言は今起こっており、あるものはわたしたちの将来に言及しています。預言は非常に重要であり、神はだれがご自分のように将来を詳細にわたり正確に予告するかと挑戦しておられます。

「主は言われる、『あなたがたの訴えを出せ』と。ヤコブの王は言われる、『あなたがたの証拠を持ってこい。それを持ってきて、起るべき事をわれわれに告げよ。さきの事どもの何であるかを告げよ。われわれはよく考えて、その結末を知ろう。あるいはきたるべき事をわれわれに聞かせよ。この後きたるべき事をわれわれに告げよ。われわれはあなたがたが神であることを知るであろう。幸をくだし、あるいは災をくだせ。われわれは驚いて肝をつぶすであろう」（イザヤ 41:21-23）。

「詩篇」は、すなわち詩です。詩的な書物は、ヨブ記、雅歌、詩篇を指しています。聖書の翻訳のある部分は、散文よりもむしろ詩的な形式で、すべての詩的な部分を記録しています。原語からの翻訳によって韻律は失われていますが、聖書の詩の美しさ、偉大さ、情感はなお明らかであり、すぐに真価を認めることができます。

## 聖書の力と目的

神のみ言葉の力は数多くの方法によって表されています。わたしたちが諸天を調べ、太陽、月、惑星、そして無数の星のすべてが自分たちに定められた軌道を巨大な宇宙空間にわたって進むのを眺めるとき、わたしたちは神のみ言葉の力

を目撃しているのです！

「もろもろの天は主のみことばによって造られ、天の万軍は主の口の息によって造られた。……主が仰せられると、そのようになり、命じられると、堅く立ったからである」(詩篇 33:6, 9)。

しかし、さらに大きな力が生けるみ言葉のうちには含まれています。イエス、神の御子は次のように仰せになりました、「わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である」(ヨハネ 6:63)。この力は何でしょうか？その目的は何でしょうか？

「というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と霊魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる」(ヘブル 4:12)。

「み言葉」そのものの中に、深く、不変かつ永遠的な力があります。み言葉はわたしたちが自らをありのまま見るように導きます。それはわたしたちの心の奥底にある欠乏や切望を探り、最も低い墮落よりわたしたちを引き上げる力を与えます。み言葉には人を正しくし、そのまま維持する力、すなわちわたしたちが自分ではできないことをする力があります。聖書はわたしたちの品性を変え、一人びとを輝かせ、喜ばせ、希望に満たすことができます。

詩篇記者はこのすばらしい変える力について次のように証しています。「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました」(詩篇 119:11)。

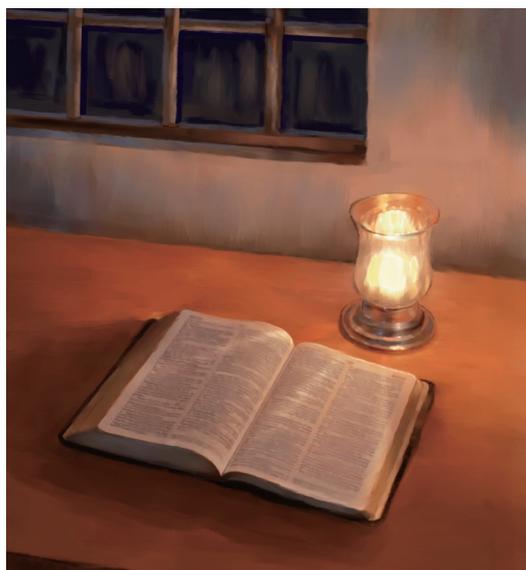
神のみ言葉はどれくらい長く続くのでしょうか。キリストは次のように宣言しておられます、「天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない」(マタイ 24:35)。

人間の短い人生と神のみ言葉を比較して、使徒ペテロは次のように記しました、「人はみな草のごとく、その栄華はみな草の花に似ている。草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は、とこしえに残る。……」(ペテロ第一 1:24, 25)。

現代の騒動と争いのただ中で、聖書は動かされることなく不変な灯台として立ち、その光は真の安息の地を指し示しています。それは教師であり、最高の勧告者です。

# この日を神と共に

*This Day with God*



10月

## あなたは神の器である

「しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」(ヨハネ 1:12)

キリストは真の高められた基準を示すために来られた。このお方の公生涯の期間は短かったにもかかわらず、このお方はご自分がなすために来られた働きを成し遂げられた。このお方が教えられた真理はなんと感銘深く、このお方のご生涯の働きは何と完全であったことであろうか! 何千もの飢えた魂に命のパンを差し出されたときに、このお方は何という霊的食物を日毎にお与えになったことであろう。このお方の生涯は、み言葉の生きた伝道であった。このお方は人に道を示す世の光であり、真理であり、命であった。このお方はその食物であり、命のパンであった。このお方が果たされなかった約束はなかった。このお方は求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」と言われた(マタイ 7:7)。

ちょうどわたしたちが、生きた水の流れが生み出す生きた緑の道すじによって、その流れの道をたどるように、キリストも一歩ごとにその道の特徴づけた恵みの行為のうちに見出されるのである。このお方が行かれるところはどこでも健康が生まれ、このお方が通られたところはどこでも幸福が後に続いた。永遠の命のみ言葉が、子供の理解できるような単純さのうちに示された。男も女も、また子供たちもこのお方の聖書の説明の方法に非常に感銘を受けたので、このお方の声の抑揚を捕らえ、その言葉を強調し、その身振りを真似するほどであった。青年たちはこのお方の伝道精神をつかみ、彼らが必要だと思われる人々を助けることを求めることによって、このお方の慈悲深い方法を模倣することを追及した。

目が見えない者、耳が聞こえない者はこのお方の臨在のうちに喜んだ。キリストの顔は多くの目が見た初めての顔であり、このお方の言葉は彼らの耳に入った初めの言葉であった。これらの癒された者たちは、可能なところへどこへでもこのお方について行った。無知な者にとってこのお方の言葉は生命の源を開いた。このお方はご自分の祝福を豊かに絶え間なく施された。それらは集められた永遠の宝物であり、キリストにあつて与えられた人への主の高価な贈り物であった。

人類のためのキリストの働きは終わったのではない。それは今日も続いているのである。ヨハネを通してこのお方はご自分を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々に神の子となる力を与えたと宣言なさるのである。(原稿 79, 1906年 10月1日、「網を置いてわたしに従ってきなさい。」)

10月2日

## 神の緊急召集兵となりなさい

「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。」(ローマ 12:2)

わたしたちの信仰の原則が危機に瀕(ひん)するとき、たとえ変わり者と呼ばれることになっても、自分たちの軍旗を示すのをためらうことがないように、わたしたちは社会の習慣や束縛から自由でなければならぬ。かつてだれも語ったことのないように語る最もかすかな細い声を聞くことができるように、あなたの良心を敏感に保ちなさい。キリストのくびきを負うすべてのものが、正しいことを正しいからするという確固たる目的を示すようにさせなさい。すべての段階で、「これは主の道であろうか?」と問いながら、イエスに目をしっかりとめなさい。主はこうする者をだれ一人として、サタン(サタン)の誘惑にもあそばれるままにはなさない。

当惑が起こるときそれは必ず起こるのであるが、神に近づきなさい。そうすれば神もあなたに近づかれる。そうすることによって、敵が洪水のように襲ってくる時、主の霊があなたのために旗を揚げられるであろう。なされるべき偉大な働きがあり、だれの影響も反対もこの義務の明白な道からあなたをそらすことがないことを決心しなさい。そうするとき、あなたはネヘミヤと共に、「わたしの神がよくわたしを助けられ」ということができるのである(ネヘミヤ 2:18)。

神のみ働きに関わっている人々が自ら売買されることを許し、人の好意や賞賛を得るために真理に背くとき、神は彼らを神聖な信任の裏切り者としてご自分の書に記されるのである。すべての者は、自分の思いを聖霊に形づくっていただくことを決心して、道徳的に独立していよう。もし改心しているなら良い影響を及ぼすことができたであろうが、改心しておらず頼りにならない人々の言葉は語ろうとしない緊急召集兵を、神は召しておられる。緊急事態においてそれらは確かに間違った道に導くことになる。主はわたしたちがだれをも真似することなく、一步一步ご自分を切に知ることを求めるよう望んでおられる。……

わたしたちは世の基準や世の型に従って、自分自身を形作るべきではない。神の民は間違った方法や計画を実行することに関する会話を聞くであろう。不敬な言葉が話されるであろう。宗教は笑いものにされるであろう。「わが子よ、悪者があなたを誘っても、それに従ってはならない」という神のみ言葉を聞きなさい(箴言 1:10)。神の御霊によって支配される者たちは、自分たちの知覚機能を覚ましていなければならない。……正しいことをする勇気を持ちなさい。神のみ言葉を行うすべての者にとって、主のみ約束は金や銀よりもさらに価値あるものである。すべての者が神からその子供として認められることを、偉大な名誉とみなすようにしよう。(原稿 121, 1898 年 10 月 2 日「忠実さの模範」)

## 変化させる恵みの力

「さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子のひとりが、イエスに言った。『主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください。』」（ルカ 11:1）

すべての魂には、主に自分の特別な必要を述べ、自分が日毎に受ける祝福に対して自分の個人的な感謝を捧げる特権がある。しかし、神に捧げられる多くの長くて心がこもっておらず、信仰のない祈りは、その人にとって喜びになる代わりに、重荷となるのである。ああ、わたしたちは本当に、清く改心した心を必要としている。わたしたちは日毎に自分たちの信仰が強められる必要がある。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」と救い主は約束された。「捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」（マタイ 7:7）。わたしたちはこのみ言葉に信頼するように、またすべてのわたしたちの働きにキリストの光と恵みを持ち込むようにと、自らを教育する必要がある。わたしたちはキリストをつかみ、そしてこのお方の変化させる恵みが自分たちのうちに表されたことを知るまで、つかみ続ける必要がある。もしわたしたちが神の品性を反映したいのなら、わたしたちはキリストを信じる信仰を持たなければならない。

キリストは今日誘惑によって攻撃されている者たちを助けることができるように、ご自分の神性を人性で覆い、祈りと自己否定、また誘惑との日毎の戦いの生涯を生きた。このお方はわたしたちの能力と力である。このお方はご自分の恵みをわがものとすることによって、人類が神性の相続者になることを望まれる。……旧約と新約にある神のみ言葉が忠実に学ばれ生活に受け入れられるならば、霊的知恵と生命を与える。

わたしはわたしたちの民に「あなたの信仰と信頼を神に置きなさい。間違いを犯す人間にあなたの義務を定めてもらうことを頼ってはならない」と告げるようにと繰り返し命じられた。……兄弟たちが共に相談しあうのは正しいことであるが、人が自分の兄弟のなすべきことをそのまま取り決める際には、彼らが主を自分たちの勧告者として選んだことに責任を持たせなさい。……

個人的に欠陥のある品性を改善する力はだれにもない。わたしたちの希望と信頼は人間以上の方になければならない。わたしたちは助けが力強いお方の上に置かれていることを、常に覚えている必要がある。主はそれを受け入れるすべての魂のために、必要な助けを与えられた。（手紙 340, 1907年 10月 3日、南カリフォルニアの働き人たちへ）

10月4日

## すべての者に働きを

「また天国は、ある人が旅に出るとき、その僕どもを呼んで、自分の財産を預けるようなものである。」(マタイ 25:14)

わたしたちの一生は貴重であるので、すべての行動は考慮されなければならない。それは、もしわたしたちが望みさえすれば、正しい精神でそれをつかむことによって、主から良いとみなされ永遠に持ちこたえる働きを果たすことができるようにと与えられたのである。わたしたちの時間も、タラントも、また感化力も神に返さなければならないのだという責任の見解の下に生きることは非常に厳粛なことである。これらは価値あるものであり、土の中に隠しておくべきではなく、使われるべきタラントである。わたしたちは自分たちのタラントを隠しておくべきではない。それらはこのお方の奉仕のうちに累積されるように、またこのお方が来られるときにご自分のものを高利と共に受けることができるように、神から賢明な発達のために委託された賜物である。

自分に委ねられたタラントの使用において、だれ一人として自分のために他の者が商売をするようにと自分個人の責任をおろすようにとは神から命じられていない。すべての者に神はその働きを与えられており、そのタラントを他のものに移すことはできない。だれ一人として自分の感化力を他の者に移すことはできないし、その人に代わって仕えることも、またその人に代わって考え、あるいは決断することもできない。

わたしたち一人一人は神の奉仕に服している。このお方はわたしたちの教師であられ、このお方が与えられるすべての教訓は尊重され実行されるべきである。わたしたちは自分たちのタラントについて、人にではなく、神に申し開きをするように命じられたのである。わたしたちの心、判断、機転、知恵のすべてはこのお方のために発達させるようにと、神からわたしたちに与えられているのであって、わたしたちがどの方法でこのお方の賜物を使ったか報告をするようにと命じておられるのは、神である。……

どの人の場合も全生涯は誘惑で囲まれており、すべての必要なときに助ける恵みを見つけることができるのは、イエス・キリストにある信仰を通してのみである。しかしそれぞれの働き人は生きるべき人生があり、形作るべき品性がある。過ぎ行く年月と共に、人生の一つ一つの期間が働きのための特別な機会をもたらし、過ぎ去って行く一年一年が活かされなければならず、まさに人間の最大能力にまで活用されなければならない。これは天来の代理人たちの助けを得て、進歩を見せるようになり、天へ向かう安全な道を一足一足歩みながら、前へ上へと発達し、向上するのが見られるようになるのである。(原稿 28, 1896年10月4日「祝福の山出版関係者たち」へ。)

## 偉大な戒め

「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。」(マタイ 22:36)

神を愛する至上の愛と互いを愛する無我の愛、これらは二本の偉大な腕であり、これらにすべての律法と預言者たちがかかっている。良い木は良い実を結ぶ。キリストに対する愛の証拠は他人に対する愛の表れである。わたしたちの周りにいる者たちへの無我の愛は、真の宗教の最も輝かしい証拠のうちにある。それによって、世に対して日毎にキリストのための証が担われるのである。

神経が安定し、頭脳が義務をはつきり見ることができると、食欲と情欲は抑えられ制御されなければならない。キリストの福音は義務の声であり、神の声である。

従うことを怠るということが何を意味しているかは、自分の不従順によって天から投げ出されたサタン歴史の中に見られる。被造物の上と与えられることができる最高のタラントと最上の賜物が守護のケルブ、ルシファーに与えられた。彼の墮落以前、彼はキリストの次の場を占める輝かしい者であったが、彼は神と等しくなることを求め、取り返すことのできない墮落を彼自身の上に招いたのであった。

この教訓を自分たちの前に置き、キリストのうちに自らを隠そうではないか。このお方はすべての知恵、すべての知性、すべての力の源である。キリストの十字架のうちにわたしたちの救いの唯一の保証を見上げなさい。わたしたちがクリスチャンになるようにと、わたしたちにご自分の命を与えておられる救い主を見上げなさい。クリスチャンの命を生きようと励んでいる者たちは、悪魔の欺瞞に対して戦っている。この闘争の結果を疑うことができるであろうか。神は生きておられる、神は支配なさっており、日毎にこのお方はご自分の奇跡を働いておられる。「キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである」(ガラテヤ 5:24)。世と全宇宙との前で彼らは、次のみ言葉を生きようと励んでいる証拠を与えるのである。「最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい」(ピリピ 4:8)。

愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、信仰、柔和、自制、これらはクリスチャンの木の実である。(手紙 21, 1901年, 1900年10月5日付ニューヨーク市の福音伝道者へ宛てて)

10月6日

## 天への競走のための訓練

「まず自分の家で孝養をつくし」(テモテ第一5:4)

多くの家庭の中で、子供たちばかりではなく親たちにとって自分の家庭にいるときよりも他人との交わりにおいてもっと快くすることが習慣となってきた。これは親と子供たちへ神が講じられた計画ではない。あなたの笑顔、賞賛、礼儀を家族の輪のためにとっておきなさい。あなたは家庭にあって優しく、思いやり深く、親切になるように、クリスチャンの礼儀を実行するように励まなければならない。家庭の宗教の情け深い精神が培われなければならない。……

キリストは鋭いあるいは不親切な言葉を決して出されなかった。ご自分の仲間に誤ったことをするように誘惑されたとき、このお方は詩篇から、あるいは聖書のみ言葉によって讚美を歌い、敵を落胆させるのであった。キリストから学ぶことを恥としてはならない。キリストは「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびぎを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびぎは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」とあなたを招いておられる。(マタイ 11:29, 30)。あなたが怒らせるような挑発を感じる時、この精神を表すとき、キリストのくびぎを負ってはいないのだということ考えなさい。そのくびぎとは服従、抑制、奉仕である。

親も子供も、キリストの真の弟子は自分たちの家庭をできる限り、天の象徴に近いものとするのだということに心を留めなさい。なぜなら、こうすることによって、彼らはこのお方の王国の律法を実行するためのキリストの共労者だからである。キリストがご自分の弟子たちに教えられた祈りを読んでみなさい。その祈りに生きなさい。それは、実践するすべての者にとって完璧な説教である。わたしたちはイエスに求めることがある。わたしたちはこのお方だけが供給できる、大いなる欠乏と大いなる必要がある。キリストがこのお方の弟子たちに教えられた祈りは、これらのすべての必要を覆っている。わたしたちは赦し、すなわち許しを必要としている。しかしわたしたちは他人を赦し、また許すことによるのみそれを得ることができる。

キリストはあなたの信頼を求めておられる。あなた自身では何もできない。あなたは親切で、真実で、礼儀正しく、無私になることは聖霊の助けなしには不可能である。……キリストのご生涯を学び、天の生活、天の家族の社会においてあなたに要求されることを知っていることを、家庭の生活において実践しなさい。地上の家庭の輪においてわたしたちは、上における家族への礼儀作法を実践するのである。(原稿 125, 1898年10月6日「家庭における教育」)

## 勝利するための力

「ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。」(ペテロ第一 3:15)

わたしたちが今生きている時代は、魂すべてを注ぎ込む助力者を必要としている。わたしたちの公言する教理の実際的な性質が心に印象を残す。なぜなら、天来の使命者たちが、信仰と働きが一体となった働き人と協力するからである。イエス・キリストと生きたつながりをもっている者は、主人のために証人として担う証を持つようになる。「あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である」とキリストは言われた(ヨハネ 15:14)。

真理にあるすべての者はキリストの友であり、キリストの働きをするのである。わたしたちには家庭の秩序や教会に、聖化されておらず改心していない品性の特性を持ち込む傾向が大いにある。またこれらはわたしたちの言葉、わたしたちの態度、わたしたちの精神を家庭における罪とするばかりでなく、教会にとっても全宇宙に対しても罪となる。神はこれを曲がった心と呼ばれる。

神が利己的、気難しい気性をどのようにみなされるかすべての者が理解することができれば、彼らは徹底的に自らを厭(いと)うようになり、彼らからすべての不快な行動を切り離す断固たる努力をするであろう。人がその不快な気質をこの生涯において変えられることなくすべて持ちながら、神の家族と一つになることができるという考えは、最大の欺瞞であり惑わしである。

勝利するための力は、環境によるのでもなければ、たとえどんなに博学であったとしても人間によるのでもない。それは、神が供給なさるいと近き助けによるのである。真理は個人的なことのために、閉じ込めておくべきものではない。もし真理が心にあるのなら、それを受け取るものは愛によって働き魂を清める信仰を表すであろう。心のうちにあるその変わることはない原則は、どんな時にも、あらゆる場合において現れるのである。……

わたしたちのすべての成功、わたしたちのすべての能力は、キリストのうちにある。わたしたちはつねに、地上の助け、すなわち最も偉大な人間の力よりも高く、また使徒たちよりも高い上を見あげなければならない。わたしたちは自分の信仰を、キリストご自身の上に直接しっかりと結び付けなければならない。このお方は「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」(5節)。「わたしにつながっていないなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていない。枝がぶどうの木につながっていないならば、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていないならば実を結ぶことができない」(4節)と仰せになる。(原稿 114, 1897年 10月 7日「キリスト・イエスにある忠実な者へ」)

10月8日

## あなたの愛情を天のものにおきなさい

「あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。」(コロサイ 3:2-4)

わたしたちは「主、またキリスト」としての救い主のより広い見解を持たなければならぬ。このお方の名を信じると公言する者たちに与えるために、「すべての力」がこのお方に与えられている。わたしたちの忠誠と服従に対するこのお方の権利、またわたしたちからさらにご自分を信じる信仰を受けるべきこのお方の権利を、わたしたちは半分も認識していない。……

使徒は、「だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから」、「あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

これらいっさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。あなたがたが召されて一体となったのは、このためでもある。いつも感謝していなさい。キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい」と続けている(コロサイ 3:12-16)。……

キリストの訓練の下に自らの身をおきなさい。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」。

わたしはすべての場所にある教会に、告白と罪を捨て去ることによって永遠のために徹底的な働きをするようにと嘆願する。「いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている」(ペテロ第二 1:3)。何によってであろうか。「ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。」「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである」(コリント第二 3:18)。

神とキリストだけが人の魂の価値を知っておられる。わたしたちのために、神のみ子はわたしたちがこのお方の貧しさを通して、永遠の富によって富む者になるようにと貧しくなされた。このお方の愛は比類のないものである。(手紙 318, 1907年10月8日、オーストラリア連合総会会長O・A・オルセン長老へ)

## 型を模倣する

「しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし……キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。」(エペソ 2:4-6)

神の霊が宿るところには、柔和、忍耐、優しさ、また寛容が存在する。そこには魂の優しさ、キリストの香りである穏やかさがある。しかしこれらの実は改心していない者によっては表されない。この類の者たちは彼らの実際の状態に対しての感覚が薄ければ薄いほど、また彼らが自己満足を抱いていればいるほど、それだけ実際に神のみ前に彼ら自身をへりくだらせる必要がある。神に導かれていると公言すればするほど、自分の周りの人々に対して威圧的であればあるほど、彼らは譴責を受け入れることができず、反対に対して我慢がならず、忠告の必要を少ししか感じないのである。柔和で優しく、温順で、憐れみと愛と良い実に満ちる代わりに、彼らは厳しく専制的で、聞くに早く話すのに遅くなる代わりに、聞くのに遅く語るのに早いのである。

彼らはだれからも学ぶことを好まない。彼らの気質は激しく猛烈である。それには定まった決意があり、まさにその目つきと態度に猛烈さがある。彼らは神のみ手から働きを取り去るかのように話し行動し、彼らが間違っていると思うものたちのうえに判決を下すのである。

キリストの真の弟子は模範を模倣することを求める。彼の愛は完全な服従へと導く。彼は神の御心が天に行われるとおりに、地において行うことができるように学ぶ。罪によって汚されている心を持つ者は、良い働きに熱心になることができず、悪を避けることにおいて注意深くなく、自分自身の動機と振る舞いを油断なく見張ることをしない。自分の手に負えない舌に用心することなく、自分を否定しキリストの十字架を負うことに心を用いない。これらの哀れな欺かれた魂は神への人の義務を定義している十戒の初めの四つの戒めを守ることを怠り、隣人に対する人の義務を定義している、最後の六つの戒めを守ることもしないのである。

心を抑制し、生活を支配する御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、憐れみの心、そして謙遜な心である。真の信者は御霊に従って歩み、神の霊が彼らのうちに宿るのである。(原稿 1, 1878 年 10 月 9 日「教会の困難」)

10月10日

## 神のみ言葉の祝宴

「わたしは天から下ってきた生きたパンである。……わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。」(ヨハネ 6:51)

わたしたちのうちだれにとっても唯一の安全は、神のみ言葉の上に足をしっかりと置き、聖書を研究し、神のみ言葉を絶えず瞑想することである。人々に証の書に関する人間の言葉を受け入れるのではなく、それを自分自身で読み学ぶように教えなさい。そうすることによって彼らはそれらが真理と調和したものであることを知るであろう。神のみ言葉が真理である。良い人について詩篇記者は次のように宣言している。「このような人は主のおきてをよるこび、昼も夜もそのおきてを思う」(詩篇 1:2)。この働きに精神と心とを注ぎ込む者は、実質的で価値のある経験を得るようになる。聖霊は神のみ言葉の中に存在している。ここにヨハネ 6章に非常にはっきりと描写されている生きた不朽の要素がある。

み言葉を信じよう。そのように天のパンを食べるものは日毎に養われ、これらのみ言葉が何を意味しているかを知るであろう。「だれにも教えてもらう必要はない。」わたしたちはわたしたちを所有され、わたしたちをご自身の血の代価をもって買われたお方の唇から出る純粋な教訓を持っている。神の尊いみ言葉はその上に建てるための堅い土台である。人があなたのもとに推測を持ってくる時に、このお方がご自分の名によって慰め主、聖霊を送られたと言う、計り知ることのできない価値のみ言葉を偉大な教師があなたに残したことを教えなさい。「聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう」(ヨハネ 14:26)。

ここにわたしたちの前にキリストを個人的な救い主として信じるすべての者が食することのできる、豊かな祝宴が開かれている。このお方はご自分を食し続ける者すべてにとって命の木である。

これらの尊いみ言葉を学ぶすべての者は、力強い慰めを得ることができる。もし彼らが神のみ言葉の祝宴で食するならば、彼らは最高の価値がある経験を得るようになる。彼らは神のみ言葉と比べて、人の言葉はもみがらと麦のようであることを見る。

わたしは神のみ言葉によって、このお方の約束はわたしと神のすべての子供に対するものであることを示された。祝宴はわたしたちの前に開かれている。わたしたちは霊的筋肉と腱を強める、神のみ言葉を食べるようにと招かれている。(手紙 132, 1900年10月10日S・N・ヘスケル長老と夫人へ)

## 子供の初めの学校

「あなたの子らはみな主に教をうけ、あなたの子らは大いに栄える。」(イザヤ 54:13)

神のみ言葉に示されているあなたの子供たちへの神のご目的を可能な限りすべて実行することは、あなた〔親〕がすべき義務である。あなた方が彼らの魂を救うために真剣に励んでいることを見られる時、主はあなた方にこの働きを達成することができるようにと、あなたに恵みと力を与えられるであろう。

神はご自分の民に、そのみ言葉に関する大いなる光を与えてこられた。しかしこの光は、従順によって自分の魂を清めることによって、彼が真理を実践するときのみ、信者に益するのである。両親たちが世的な計画に従い、心を清めるキリストの力を示すことに失敗することによって神を誤り伝えるがゆえに、いつもサタンが勝利を得なければならないのであろうか。一家族の子供が手におえないときにも、教会全体が苦しむことになる。キリストはすぐに来られる。わたしたちの学校は聖書の原則により頼むという高い標準に到達するべきである。

両親はキリストのようになるということが何を意味しているかについて、はるかにもっと深い感覚が必要である。彼らは自分の子供たちの救済のために働く重要さを、理解する必要がある。神は今まで示したより大きな献身を彼らに要求しておられる。彼らが多くの方針において改革をしない限り、学校はすべきことを達成することはできない。

家庭は子供の初めの学校である。神は彼らの子供たちを彼の指示に従ってしつけることをしない両親たちに、責任を求められるであろう。両親たちは神を真剣に求め、絶対的に従い、そして彼らは自分の子供たちから従順を要求すべきである。あなた方があなた方の子供たちをなおざりにしておき、そして彼らを〔教会の〕学校と安息日学校に送ることによって彼らの将来を安全に確保することができると考えてはならない。神はあなた方がなおざりにしてきた働きをするように求めておられるのである。家庭において、すべてのことにおいて節制を実践しなさい。そしてあなたの子供たちに真の教育を与えようと努力している教師たちを維持しなさい。……

カルバリーの十字架から輝いている光は、神が時が続く限り、真剣に注意深くなされるようにと要求されている働きを示している。(手紙 134, 1901年10月11日、ヘルズブルグ学校の教師と生徒たちへ)

10月12日

## 十字架を避けてはならない

「キリストとベリアルとなんの調和があるか。信仰と不信仰となんの関係があるか。」(コリント第二 6:15)

最後に与えられた幻の中で、わたしはあなたが、自分の子供たちがだれからの非難も受けずに、すべての人の同意を得られる程度の宗教を持つべきだと悩んでいることを示された。神の霊の引き寄せる感化は彼らに少ししか影響を与えていない。…

わたしたちがキリストの僕であると公言する時、わたしたちは世にそれ以上仕えるべきでなく、わたしたちが神聖なものを見なしている真理を否定する者たちとの結合や交わりを持つべきではない。わたしはヨハネ第一 2:6 に向けられた。「『彼における』と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。」「わたしにつながっていないさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていない。枝がぶどうの木につながっていないければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていないければ実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」(ヨハネ 15:4, 5)。……

あなたは世によって、または他の者の意見によってあなた自身を計ることはできない。あなたの唯一の安全は、あなたの立場をキリストに従う者と公言して以来あなたの進路が常に前へ上へととなっていたらどうなっていたかということと比較することにある。あなたの道徳的品性は神の前で調査を受けている。あなたは聖所の秤に計られて、もしあなたの霊性があなたの上と与えられた恩恵と特権に対応しなかったなら、あなたは足りないことを見つけられるであろう。あなたの道はさらに明るく増大し、神の栄光のために多くの実を实らせているべきであった。

あなたは足りない。それなのにあなたは、あたかも神の恩恵の印として昼には雲が夜には火の柱があなたの前を行ったかのように無関心のまま休み、まったく満足している。あなたは自分自身が選ばれた、神につける民のうちにいるかのように推測しているが、最大限に救うことができる神の力の現われも証拠も持っていないのである。あなたは神が彼の民に分離するように要求されているようには、世から分離していないのである。……

神の民は彼らの特有で聖なる品性を保つ、絶え間ない戦いの中にあり、どんな状態や環境にあっても、キリストの十字架を避けたり、放棄したりしてはならないのである。(手紙 9, 1861 年 10 月 12 日個人的証)

## 神なる精錬者

「わたしはまた、わが手をあなたに向け、あなたのかすを灰汁で溶かすように溶かし去り、あなたの混ざり物をすべて取り除く。」(イザヤ 1:25)

わたしたちはすべてのかすと混ざり物がわたしたちから取り除かれ、純金以外は何も残らなくなるまで、あらゆる方法で試みられる。あなたのために成し遂げられるべき働きがある。あなたは魂の深い謙遜を持ち、自己と屈することのない意志に対して戦わなければならない。さもなければ確実に敵によって陥れられてしまうであろう。

新しいことを聞いたり話したりすることを愛する者たちがあなたを悲しませ、あなたを傷つけてきた。そして、あなたは心の中で非難には値しない者たちを非難し、あなたが安心して頼ることのできる者たちを疑ってきた。あなたが取るべき立場を取るとき、あなたの心はあなたの兄弟姉妹たちと固く結ばれ、彼らの心もあなたの心と結ばれるであろう。しかしあなたは自分自身をその兄弟たちから引き離してきた。そしてその原因はあなたのうちに存在しているのである。あなたは導かれ教えられることを快しとしない。暗闇と雲があなたの周りに集まってきている。サタンはあなたを麦のようにふるいにかけることを願っている。彼はあなたを打ち負かして喜ぶことができるように、あなたの失脚を心待ちにして見張っている。

あなたが今まで考えてきたより、神はご自分の教会が彼らの服装において世からさらに分離することを求められる。神はその民に外観の誇り、自己の愛から離れるようにと常に教えておられるが、あなたはこのことにおいて神の霊に真っ向から反対の働きをしている。それゆえにあなたは暗闇の中を歩いており、敵の戦場に自らを置いているのである。

わたしは神があなたを愛しておられることを見た。良い羊飼いはあなたをその苦悩と苦痛のただ中で優しくいたわり、保護してこられたが、あなたは自分の意志と意見を屈服させ、快く教えを受けなければならない。だれ一人として、そう、だれ一人として、一人で天へ行くことはできない。神はご自分が導き、指導し、教えている民を持っておられる。彼らは互いに服さなければならない。もしある人が独立して、一人で天国へ行こうと企てるのなら、彼は命へと導くことのない間違った道を選んだことに気づくであろう。……

わたしはこの事柄については、それがわたしに示されたとおりに書き記すように努めた。あなたがそれをありのまま見ることができるよう、また永遠への確実に徹底的な働きをするようにというのが、わたしの祈りである。(手紙 19, 1861年10月13日個人的証)

10月14日

## 審判が到来している

「神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである。」(伝道の書 12:14)

主は力と大いなる栄光を持って、天の雲に乗ってまもなく来られる。この出来事を中心とした真理と、そのために必要不可欠な準備には、わたしたちの義務を厳粛に考えさせるのに十分なことが含まれていないであろうか。民の前にこの主題は明白にはっきり保たれていなければならない。「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来る…そして、すべての国民をその前に集め…」(マタイ 25:31, 32)。

終結させるための手段としてすべての教会において必要とされている真理を、また永遠の決定と報いをもって審判を終わらせる真理を提示しなさい。神はすべての人に自身の働きに応じて報われる。「アダムから七代目にあたるエノクも彼らについて預言して言った、「見よ、主は無数の聖徒たちを率いてこられた。それは、すべての者にさばきを行うためであり」(ユダ 14, 15)。そしてソロモンは、義の宣伝者として嘆願と宣言をしている時、来るべき審判の予見を示した。「事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである。」(伝道の書 12:13, 14)

わたしたちには、試金石となる真理として神の群れに提示するために、重くて厳粛な真理が豊かにある。それは神のみ言葉から宣布すべきであり、人の思いが人間の無きに等しい理論を考案したり計画したりすることを許してはならない。麦に比べれば、もみがらなど何であろう。

最後の審判は最も厳粛で恐ろしい出来事である。これは宇宙の前においてなされなければならない。主イエスに父はすべての審判をゆだねられた。彼はエホバの律法に対する忠誠への報いを宣言される。神は誉れを受けられ彼の政権はその正当さが立証され、栄光を受けられるのであり、それは墮落することのなかった世界の住民のいるところでなされるのである。神の政権は最大限の規模で擁護され、高められる。それは一個人や一国家の審判ではなく、全世界の審判である。そうすることによってすべての者が永遠の命の価値を悟ることができる。(手紙 131, 1900年10月14日A・G・ダニエルスへ)

## 天来の任命

「イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し」(マタイ 28:18, 19)

キリストに、そしてキリストにのみ、万物に権威を行使する権利が与えられている。このお方のうちに彼らの信頼を置き、彼らの信仰の公言を最後まで固く持つ者は、保護される。キリストの弟子として、このお方の共労者として、すべての働き人のうちに一致した行動がなければならない。ある者はある方法で真理に改心し、他の者は別の方法で最高に心を動かされた。同様に、働き人たちは、ある者はある分野で、他の者は別の分野で行動するが、すべての者は一致して混じりあうことができる。一人びとりに、その人の働きが与えられているのである。

自分たちの仲間である働き人を批判する者たちは、敵が入る扉を開くのである。他の者の誠実さについて疑いと疑惑を表現することによって、兄弟が兄弟に反対して働いていることを見ることよりも悲しいことがあるだろうか。すべての者が彼らの神から与えられたタラントを使う十分な機会がある。すべての者は靈感を受けたみ言葉のうちにある鼓舞する信仰の一つの目的を持って働いている。そうであれば、すべての者は自分の言葉と働きを律し、同じ目的をもって働いている者たちと調和できるようにしようではないか。……

神のみ言葉を教える働きをゆだねられた者たちは、このように宣言されたお方の支配下にいることを確かとしよう。「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた」(マタイ 28:18)。このお方の弟子たちに対するその任命は、「あなたがたに命じておいたいっさいのことを〔すべての国に〕守るように教えよ」という言葉を含んでいた(20節)。自分自身の思いを標準として定め、他の人がそれに合わせるようにと強制するような権威を授けられている者は一人もない。……

輝かしい福音、すなわち贖いの愛という神のメッセージの輝かしい福音は、人々にもたらされなければならない。その愛は働き人の心のうちに表されなければならない。救う恵みという主題は、過酷な精神に対する防御策である。心のうちにあるキリストの愛は、罪人の救いに対する真剣な働きの中に表現されるであろう。……

福音が命と救済への神のみ言葉として提示されるように。…福音は愛によって働く精神の表れによって評価される。「よきおとずれを伝え、平和を告げ……〔る〕者の足は山の上にあつて、なんと麗しいことだろう」(イザヤ 52:7)。(手紙 318, 1906年10月15日ナッシュビルとマディソンの兄弟姉妹方へ)

10月16日

## 誇りと自尊心を空にする

「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。」(コロサイ 2:6)

わたしたちの心が真理によって聖化されるとき、それはキリストの心と一致するようになる。使徒はこう言っている。「キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい」(ピリピ 2:5)。利己主義、自己高揚があなたの魂の中へと迫ってきているであろうか。あなたの救い主イエスについて熟考しよう。どのように彼が低くなられたか考えて見なさい。このお方は天の宮廷において指揮官であられたが、彼は彼の冠、彼の王の上着を脇に置き、人性が人性に触れ、神性が神性をつかむことができるようにご自分の神性を人性で覆われた。墮落した人のためにこのお方はご自身を低くされた。

自分たち自身の光のうちに立ってきた者たちがいる。ある者は悪を見つけ、悪について話そうと用意ができているが、彼らは彼らの兄弟たちの中に彼らが見た善について賞賛しなかった。彼らの兄弟の罪を話し考える用意ができている者たちは、彼の聖徒として直接キリストを傷つけているのである。彼らはキリストの心を悲しませ、彼ら自身の魂を危険においているのである。……

わたしたちのうちだれが誇りと自尊心を自分自身から空にしたであろうか。わたしたちのうちだれが、彼の生命のすべてのエネルギーを持って天使と格闘していたヤコブのように本当に真剣であろうか。ヤコブは不法な敵と格闘していると思って、彼の全力を尽くしていたが、主は神の一触をもってご自分の指で彼に触れ、格闘は終わった。ヤコブはそれが主であることがわかった。すると、打ち負かされ、彼は天使の首にしがみついて、嘆願した。「わたしを、わたしをも祝福してください」。その天使は言った、「夜が明けるからわたしを去らせてください。」

今はヤコブが言葉を出す番であった。彼は言った、「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」。その人は彼に言った、「あなたの名はなんと言いますか」。彼は答えた、「ヤコブです」。その人は言った、「あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との、力を争って勝ったからです」。ヤコブは尋ねて言った、「どうかわたしにあなたの名を知らせてください」。するとその人は、「なぜあなたはわたしの名をきくのですか」と言ったが、その所で彼を祝福した。そこでヤコブはその所の名をペニエルと名づけて言った、「わたしは顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きている」(創世記 32:26 - 30)。

わたしは人々に主を最も真剣に求めるようにと勧告した。(原稿 187, 1898 年 10 月 16 日 日記)

## 口先だけの信心の宗教

「飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼ようになる。」(イザヤ 58:10)

イエスの愛に関して、今いたるところに広まっている偽りの経験がある。その経験とは、イエスの愛を考えなければならない、わたしたちに必要なのは、イエスを信じる信仰だけであるというものである。しかし、これらの魂は、心にあるイエスの愛は生活の謙遜とこのお方のすべての戒めに対する服従へと導くことを教えられなければならない。「『彼を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにない」(ヨハネ第一 2:4)。口先以上に行かないイエスの愛は魂を一人も救わないばかりか、大いなる欺きとなるであろう。(原稿 28, 1885年10月17日 スウェーデンへの初めての訪問、日記)

イエスを愛すると公言するある者は、欺く者であり彼らのすべての宗教は口先だけの宗教である。それは品性を変化させない。それはうちに働かれる恵みを表さない。彼らはキリストの学校で、柔和と心のへりくだりの教訓を今まで学んだことを示さない。彼らは生活や品性を通して、自分たちがキリストのくびぎを負っていることも、キリストの重荷を持ち上げていることも示さない。彼らは神のみ言葉のうちに自分たちに与えられた標準に達していないが、人の標準に達している。彼らの生涯はキリストのご生涯のように純潔ではない。彼らはこのお方のみ霊によって、精錬されても高尚にされてもいない。真理の道を彼らは知らず、彼らは「主よ、主よ、開けてください。わたしたちは町で教えました。わたしたちは力あるわざを行いました」という数の中にいる。しかし、キリストは彼らに、「『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ』」と言われるであろう(マタイ 7:23)。(同上)

聖書の真理を拒む者たちは、イエスを愛するという口実の下にそうするのである。イエスを愛する者たちは、その愛を従順な子供となることによって表すであろう。彼らはみ言葉を聞くだけでなく、行う者となるであろう。彼らは「わたしたちがしなければならぬことは、イエスを信じることである」と常に嘆願することはないであろう。これは完全な意味では真実であるが、彼らは理解しないし、彼らはそれを完全な意味に解釈しない。イエスを信じるということは彼をあなたの贖い主として、あなたの模範として見なすことである。イエスを信じるすべての者は、彼の模範に従わなければならない。彼らは枝が生きたぶどうの木と繋がっているように、密接にイエスと彼ら自身を繋げなければならない。彼らはイエスにおり、イエスが彼らにおり、彼らはこのお方のみ言葉を行う者であり、このお方の神性を受け継ぐ者である。(同上)

10月18日

## これらのことに心を留めなさい

「主は正しい者の道を知られる。しかし、悪しき者の道は滅びる」(詩篇 1:6)。

もし心が天の事柄を熟考するように教育されているのなら、食欲は安っぽく汚れたものによって満足させられない。主はわたしたちのために大いなることをなさざる準備ができておられるが、これらのものを受けるためには、心からすべての自己満足と自己過信を空にすることによって、わたしたちの準備ができなければならないということを心に留めていなければならない。主だけが誉を受けられなければならない。「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊び」と主は言われる(サムエル記上 2:30)。わたしたちは認めてもらうために懸命に努力する必要はない。なぜなら「主は自分の者たちを知る」からである。自分自身に自信を持たず、自分自身の働きを不信の目で見る者たちに、主はご自身の栄光を表してくださる。彼らは受けた恵みを最大限に活用する。レバノンの清い流れから飲むすべての者は、彼らのうちに命の水が湧き出て、それを抑えることができない。……

主はわたしたちが人に目を向け、人に信頼するとき、わたしたちが肉の腕を頼みとしているのだということをご存知である。このお方はわたしたちの信頼を求めておられる。このお方の力に限りはない。主イエスのこと、またこのお方の功績と愛について考えなさい。しかし、他の者たちの欠点を探し、彼らの間違いをいつまでも考えようとしてはならない。あなたが認め、また賛美するのにふさわしい事柄をあなたの心に思い起こしなさい。そして、もしあなたが他の者たちの過ちを見分けるのに敏感だとしたら、それ以上に良いことを認め、良いことを称えるのに敏感になりなさい。あなたは、もし自分自身を批判してみるなら、あなたが他人のうちに見るのと同様な好ましくないことを見つけるであろう。それなら、最も聖なる信仰のうちに互いに力づけるために常に働こうではないか。

ピリピへのパウロの書簡に彼は言っている。「キリスト・イエスの僕たち、パウロとテモテから、ピリピにいる、キリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、ならびに監督たちと執事たちへ。わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。わたしはあなたがたを思うたびごとに、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈るとき、いつも喜びをもって祈り、あなたがたが最初の日から今日に至るまで、福音にあずかっていることを感謝している。そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している」(ピリピ 1:1-6)。わたしたちすべての者が、この精神を自分たちのものにしよう。(原稿 187, 1898年10月18日日記)

## 命を与える水

「イエスは答えて言われた、「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願ひ出て、その人から生ける水をもらったことであろう。」(ヨハネ 4:10)

このメッセージはサマリヤの女と同様に、確かにわたしたちに向けられているのである。それは時代を通じて聞こえてきている。「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願ひ出て、その人から生ける水をもらったことであろう。」あなたの心のうちで注意を集中させなさい。一人ひとりの魂は、自分の霊的の必要の理解へ目覚めさせられるべきである。……

神の賜物について知らない者がなんと多くいることであろう。彼らは真理について話し、天と宗教について話し、信仰について話すが、彼らはそれを知らない。彼らは信仰が何を意味するか、または神に信頼するとは何か、毎日に命の生ける水を飲むとはどういうことかなどの、経験的知識を持っていない。

生ける水に飢え渴き、次のように感じる者が……だれかいるであろうか。ああ、わたしがそれを探し出すことができればよいのだが。わたしは右を見たが、そこにはなく、左に捜し求めたが、それを見つけることができない。わたしはわたしの前や後ろを見たが、わたしの救い主を探すことができない。あなたは彼をどのように見つけることができるか知りたいであろうか。このお方のところに小さな子供の単純さのうちに、子供が親に持っている絶対的信頼のうちに、困窮し、依存しているありのままの状態に来て、大いなる必要のうちにあなたを憐れんでくださるように懇願しなさい。あなたが救いの水が欲しいことを告げなさい。……

キリストが与えてくださる水を飲まなければ、わたしたちは自分自身の状態、あるいはわたしたちの周りにいる者たちの状態を向上させることはできない。イエス・キリストがわたしたちに与えることができ、また与えようと切望している恵みによって満たされることによるのみ、今にも滅びようとしている魂の必要に応えることができるのである。

このお方はサマリヤ人もユダヤ人と同様に救うために来られたのであるから、この女がキリストを知らなかったのは、彼女がサマリヤ人であったためではない。このお方にとって階級や特別に優遇される人々などはないのである。このお方はこの世の罪を取り去るために来られた。このお方はユダヤ人であろうが異邦人であろうが、すべての者に対して快く罪を取り除かれる。そして、わたしたちが天国に入ることができる前に、これがわたしたちのためになされなければならない。わたしたちは自分の罪をこの方に取り去っていただかなければならない。なぜならこのお方のうちには罪がないからである。このお方はわたしたちの罪を負われる方である。(原稿 18, 1895 年 10 月 19 日)

10月20日

## 死別にどのように向き合うか

「主の聖徒の死はそのみ前において尊い。」(詩篇 116:15)

わたしはわたしの主人の病について詳しくお話することはできない。あなたは印刷物にその詳細を見つけることができるであろう。わたしは彼がそれほど良い状態ではないと告げられた。医者はわたしが彼に会うことがわたしにとって良いことであろうといった。彼らはわたしを彼の部屋に連れて来たが、彼を見た瞬間、わたしは「わたしの主人は死ぬ」と言った。彼の表情には疑うことのできない死の兆候があった。ああ、わたしは何という衝撃を受けたことであろう。彼の枕元でわたしはひざまずいた。わたしはこの上なく真剣に彼が死なないようにと祈った。……

わたしは一晩中彼といて、次の日の正午に彼は冷たくなり、そのときから彼は何も感じなかった。彼はまさに眠りについたのであった。……

わたしたちはウィリーとメリーに来るようにと電報を打った。…彼の死後一週間後にウィリーとメリー、またジョン・ホワイト〔メソジストの牧師であり、ジェームス・ホワイトの兄弟〕も来た。……

ジョン・ホワイトは、「エレン、あなたがこんなに弱いを見て、本当に気の毒です。明日の葬式では非常につらい思いをしましょう。神があなたを助けて下さいませ。わたしの愛する姉妹よ、この時に助けて下さいませ」。わたしは言った、「ジョンお兄さん、あなたはわたしをご存じないのです。わたしは状態が困難であればあるほど、さらに不屈の精神を持つのです。もしわたしの心が裂けても、わたしは悲嘆にくれたりするようなことはありません。わたしは衝動的にはなく、知的に神にお仕えています。わたしは悩みの時のいと近き助けであられる救い主に仕えているのです。わたしはクリスチャンです。わたしは自分の信じてきたお方を知っています。彼はわたしに絶対的な揺らぐことのない服従を要求しておられます。度の過ぎた悲しみを主はお喜びになりません。わたしは定められた十字架を負い、完全に主に従います。わたしは悲しみにくれて、自暴自棄になったりはしません。わたしは病的で憂鬱な精神状態に屈したりはしません。わたしは神の摂理に向かって、つぶやいたり不平を言ったりはしません。神は生きておられます。このお方は決してわたしを離れず、わたしを捨てたりなさいませぬ。……」

〔翌日〕、〔ユライヤ・〕スミス長老が葬式の説教を話された後、わたしはクリスチャンの希望がわたしのものであり、死別の時にもわたしを支えられたことをすべての者に知らせるために何か話したいと切に願ったが、自分の足で立つことはできないのではないかと恐れた。もしわたしが倒れた場合に「彼女を受け止めよう」と思っていたと言って、医者〔J・H・ケロッグ〕は立って身構えていた。しかし、わたしが言わなければならないことは明確に述べ切ったのであった。……

わたしが世の友情にわたしの慰めを見出すままに、放って置かれなかったことを神に感謝する。(手紙 9, 1881年 10月 20日「親愛なる兄弟姉妹方」へ)

## 祝福の通路

「主人が帰ってきたとき、目を覚めているのを見られる僕たちは、さいわいである。」(ルカ 12:37)

真に改心している者たちは、金銭と献身を要求する働きをするように召されるであろう。わたしたちの名前を教会名簿に載せる義務を負わせている責任は、神のためにわたしたちの能力の最大限度まで働く責任を負わせている。神は完全な奉仕、心と魂と精神と力の完全な献身を要求されている。キリストは他の者たちの救済のために献身的な働きにわたしたちのすべての能力に従事させ没頭することができるようにと、わたしたちを教会組織に入れてこられた。これ以外のもは働きに対する反対である。宇宙においてわたしたちが自分の宝を置くことができる場所は、ただ二箇所しかない—神の蔵あるいはサタンサタンの蔵である。神の働きにささげられていないすべてのものはサタンの側のものと見なされ、彼のわざを力づけるために送られるのである。主はわたしたちに任せられた財産が、ご自分の王国の建設に使われるようにと計画される。このお方の財産は注意深く商売に使われ、永遠の命へ魂を救うことにおいて彼に収益をもたらすようにとご自分の管理人に任せられた。そしてこれらの魂が今度は神の王国への関心の下において、この偉大な企業に協力するために真理の管理者となるのである。

神の王国の臣民に生命があるところではどこでも、増加と成長がある。相互にやり取りし、受けてはまた主に主ご自身のものをお返りする絶え間ない交流がある。神は真の信者一人一人と働かれ、受けた光と祝福は信者が行う働きのうちにあつて再び与えられるのである。彼がそのように受けたものを与えることによって、彼の受ける容量も増加する。彼が天来の賜物を分け与えることによって、恵みと真理の新たな流れが生ける源から魂の中に流れる場所を開けるのである。教会のメンバー一人一人に依存しているこの働きに、教会の命と成長がある。

いつも受けてばかりで、決して与えることのない生涯は、まもなくその祝福を失ってしまう。もし真理が彼から他の者へと流れていかないのなら、彼は受ける能力を失ってしまう。わたしたちはもし新たな祝福を受けたいのなら、天の財産を分け与えなければならない。…もし人が、他の人々に神の祝福のあふれ出ることのできる通路となるのなら、主がその通路に供給し続けてくださるのである。(原稿 139, 1898年10月21日「宣教への嘆願」)

10月22日

## 疑ってはならない

「あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。」  
(ピリピ 4:4)

彼の罪が許されていることを知り、天の宮廷において一層高い生命の確証のうちに喜ぶことは、主の働きのどの分野においても役割を持っているすべての者にとって、特権である。この望みは銀や金や高価な宝石よりも尊いものである。この望みをいつも明るく保ち、他の者に分け与えることを追求しなさい。神の微笑があなたの上に宿っているという知識において、あなたの心は喜びと平安で満たされるであろう。

キリストの恵み深き招待に耳を傾けなさい。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ 11:28-30)。

キリストが約束されたその休みをすべての者が求めるようにしよう。あなたは彼のみ言葉の真理を世に表すべきである。あなたはキリストのくびきを負うことに、真の幸福があることを示すべきである。

神のみ言葉を疑うことによって、このお方に不名誉を与えてはならない。あなたがこのお方を信じるように、このお方はあなたの努力、あなたのこのお方との結合においてあなたと協力してくださり、あなたは神に喜ばれる働きをなすことができる。このお方が分け与えられる義を通して、あなたは世にある欲のために滅びることを免れるのである。「主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい」(ピリピ 4:4)。ああ、わたしたちが感謝に溢れた心から出る神への讚美をもっと聞くことができたらよいのに。わたしたちは常に日光のうちに住み、あらゆる環境にあっても主に讚美をささげることのできるクリスチャンを必要としている。キリストが約束された希望と確信を持ちながら、どうしてわたしたちは不幸になることができるのであろうか。

クリスチャンはだれでも、不満になってよい言い訳もなければ、それを正当化する理由もない。あなたが従うようにとキリストが示された道に、失望しているという印象を決して与えてはならない。

わたしたちの品性はキリストのお姿に一致しなければならない。わたしたちは神の律法に実際に真に従順になるべきである。そうすることによって、このお方はわたしたちを通して、ご自分のみ言葉の原則への服従を通して来る祝福を実証することがおできになる。天の王はご自分に仕える最も謙遜な魂を今にも承認しようと立っておられるのである。(手紙 299, 1905年10月22日パラダイス・ヴァリーサニタリウムの働き人たちへ)

## 憂鬱にどう対処するか

「わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。」(詩篇 43:5)

夜の間わたしはあなたと会話していた。わたしはあなたに「憂鬱に負けてはならない。慰めと平安を与えられるように、慰めを与える聖霊の感化をあなたの心にお迎えしなさい」と言っていた。

わたしは主があなたに個人的慰め主としてご自身をあらわされるようにと祈っている。わたしたちの天のみ父の大いなる恵みを認識するために、魂の目は開かれ続けなければならない。イエスは明るく輝く光であられる。このお方にご自身の輝かしい光線を心と精神に反射させていただきなさい。感謝をささげることを忘れてはならない。「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる。自分のおこないを慎む者にはわたしは神の救を示す」(詩篇 50:23)。このお方を仰ぎ、あなたの必要すべてをこのお方の前におきなさい。主にとって不可能なことがあろうか。彼は大きいなる医者であられる。このお方は心と体を癒すことができになり、このお方はあなたが信仰のうちにご自分につかまらるるようになされる。

キリストはこの世の光であられる。「しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている」。(マラキ 4:2) あなたの魂のうちにこのお方の平安の光が照らすようにしなさい。このお方はあなたのことを優しく心配され、あなたは心と魂と声によってこのお方をたたえなければならない。あなたは快い精神を示すことによって彼を喜ばすことができる。落胆や不満の雲一つも、あなたからこのお方のご臨在の日光を隠すことのないようにしなさい。

あなたが勝利するのは、このお方の光を認識することにある。神の讚美を話すことにより声を訓練することによって、あなたは信仰のうちに強まるであろう。このお方を認識する心へ約束がある。「わたしは、……輝く明けの明星である」(黙示録 22:16)。

もしあなたが尊い勝利を得たいのなら、義の太陽から反射している光に顔を向けなさい。神に望みと信仰と感謝を語りなさい。キリストにあつて快活に希望に満ちなさい。彼に感謝をささげるように自分自身を教育しなさい。これが心と体の病気への大きいなる治療である。「わたしはなおこのお方、すなわちわが顔色の健康であられるお方、わが神なる主をほめたたえるであろう」。(詩篇 42:11; 43:5 英語訳)(手紙 322, 1906年10月23日オーストラリアの教会指導者の妻へ)

10月24日

## 自己を視野からなくす

「それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。」(ロマ 5:3, 4)

試練と苦悩の炉で得られる経験は、それが要求する不自由やつらい経験よりも価値がある。孤独、疲労、試練のうちにあなたがささげた祈りはあなたが耐えることができるとおりに神が答えてくださった。あなたは自分の兄弟たちに対して明白で正しい見解を持っていないし、自分自身も正しい光のうちに見ていない。しかし神の摂理のうちに、このお方はあなたが苦難においてささげた祈りに、あなたを救いかつご自身のみ名に栄光を与える方法によって答えるために働いてこられた。

自分自身について無知であるがゆえに、あなたは自分にとって最善ではないことを求めた。神はあなたの真剣な祈りを聞かれたが、与えられた祝福はあなたが期待したものとはとても違うものであった。このお方はあなたをご自身のみ摂理のうちにおいてあなたをさらに直接に教会とのつながりのうちに置かれることを計画された。それは、あなたが自分自身に信頼することを少なくし、神がご自身の働きを広げるために導いておられる者たちにはより大きな信頼を置くようになるためである。……

あなたをまっすぐな所を通して導いて来られたのは神である。このお方は患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達(経験:英語訳)を生み出し、錬達は希望を生み出すようと、この中に目的を持っておられた。あなたの上にもたらされることをこのお方によって許された試練は、これらの訓練によってあなたが義という平かな実を経験するためである。……

神はあなたがご自分にもっと完全な信頼と自信を持つことができるように、またあなたが自分の判断をより少なく考えるように、困難や試練の中を導かれるのである。あなたは繁栄よりも逆境によりよく耐えることができるであろう。全能のエホバの目はあなたのうちにあなたが金、また捨てるには高価すぎると見なしている多くの不純物を見つけられた。あなたに及んだ敵の力は、時に直接的で非常に強いものであった。……

あなたの意志は神のご意志によって形作られなければならない。さもなければあなたは重大な誘惑に陥ってしまうであろう。わたしはあなたが自己を視野からなくし、神にあつて働くとき、心に触れられるようにさせる神からの力を実感するようになるのを見た。……

あなたは他人の気持ちについていつも親切で思いやり深くなく、まったく不必要に試みと不平を作り出す。あなたの働きにおいてより多くの愛、より多くの親切な同情が心への接触を与え、キリストと真理へと魂を勝ち取るのである。(手紙 54, 1874年10月24日初期のSDAの牧師へ)

## 家庭宗教の重要性

「また、『わたしは、彼により頼む』、また、『見よ、わたしと、神がわたしに賜った子らとは』と言われた。」(ヘブル 2:13)

わたしたち個人の品性の特徴がまったく神に聖化されるために、絶え間なく見張り、日毎に再改心する必要がある。わたしたちの力のすべてが罪の不純物から清められ、奉仕のために訓練されるべきである。神の僕であり、またキリストの間もない来臨を待っていると公言しながら、神のみ前に傷がなく立つすべての者が持たなければならない経験を持っていないものが多い。彼らは品性建設の働きにおいて間違いを犯している。これらの間違いを犯し続けることは、犠牲の大きい取引である。なぜなら、彼らは神性の生命の進展を妨げるからである。

わたしたちの宗教責任は家庭生活において神に忠実に仕えることから始まる。わたしは親がそのすべての力をキリストのための聖別された奉仕にささげるようになるために、公にも個人的にも彼らに真剣な証を負うように強く迫られている。わたしは神の霊によって満たされる必要を、わたしたちの民に勧告するように示された。この霊はいつでもどこでも機会が与えられるときには、キリストと調和して働くように信者に教えるのである。わたしの前にわたしたちの民の中の違った家族が示されながら、わたしは神の改心させる力の大きい必要を示された。  
.....

家庭における宗教は命に関わるほど重要である。父と母には、その子供たちが受ける品性形成に対する多大な責任がおかれている。……もし両親が彼らの子供たちに神のみ言葉に従ってふるまうように教えるなら、これらの子供たちは無意識に他の者たちにクリスチャンになるということは何を意味するかを教えるであろう。両親たちは子供たちの前で真のクリスチャンの尊厳を保ちなさい。そうすることによってキリストの王国を築き上げる働きにおいて、大いに助けられるであろう。

使徒パウロはこの終わりの時代に生存する子供たちを表現しながら、「親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者」として彼らを表している。両親たちがこの時代の風潮を悟り、彼らの子供たちをこれらのことから離れて教育し、彼らにキリストのご生涯を愛し習うように教えることによって彼らを清い将来の生命の場所のために準備することによって、たゆまず働くことは重要なことである。(手紙 90, 1911年10月25日S・N・ハスケル長老と夫人へ)

10月26日

## 最後の戦い

「見よ、わたしは盗人のように来る。裸のままで歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を身に着けている者は、さいわいである。」(黙示録 16:15)

恐ろしい闘争が、わたしたちの前にある。わたしたちは全能なる神の大いなる日の闘いに近づいている。抑制されてきたものは放たれようとしている。憐れみの天使はその翼をたたんで、黄金の座から下り、世が、自分の選んだ王であり、初めからの人殺し、また破壊者であるサタンに支配されるがままにして去ろうとしている。

この世の支配と権力は天の神に対して苦い反乱のうちにある。彼らはこのお方に仕えるすべての者に対しての憎しみに満たされており、間もなく、とても早く、悪と善の最後の大きい戦いにおいて戦われるのである。この地上は戦場—最後の闘争と最後の勝利の舞台—になるであろう。この地上、すなわち長い間サタンが人を神に反するように導いてきたこの場所において、反逆が永遠に鎮圧されるのである。

わたしたちがサタンの力によって克服されないように、キリストがわたしたちの救いの将として立つことができるようにこのお方は人間の形を取ってこの地上に来られた。そして敵が際立って義人に勝利を得ているように思われるとき、神は敵の計画を阻止するために憐れみと力のうちに働いてこられたのである。

人間の中にある神のお姿を消し去ろうと決心して、サタンは強烈な努力で視界から神を隠そうと働いている。彼は公然とではなく、人間のものと神のもの、偽物と本物を混ぜながら、混乱と苦悩をもたらすことを求めながら、ひそかに働いている。しかしそれに匹敵した力のうちに神の憐れみはこの悪の働きを阻止し、敵の隠れた目的を明るみに出すために表された。

神の民は筆と声の証により神のご目的を明らかにすることによって、真理のために勇敢ではっきりとした証を担う必要がある。男女を真理の理解へと目覚めさせながら、次々と各地で、神のみ言葉のメッセージが宣布されるべきである。

.....

健全な教義には現実がある。それは過ぎ去っていくような、蒸気のようなものではない。光が神のみ言葉から輝き出なければならない。神はご自分に近づくようにと神の民を呼んでおられる。だれも神とその民の間に介入しないように。キリストは入口を捜し求めて心の扉をたたいておられる。あなたはここにお方に入っただくであろうか。(手紙 153, 1901年10月26日オーストラリアの兄弟姉妹方へ)

## わたしたちは敵地にいる

「この巨大な籠、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。」(黙示録 12:9)

主の民が主の与えてこられた光に従う決心を示すとき、敵は彼らを落胆させるためにあらゆる努力の限りを尽くすであろう。しかし彼らは、主の勧告に従おうとするときに起こる困難のためにあきらめてはならないのである。神はわたしたちにご自分の働きを委ねられ、もしわたしたちが彼のご要求に従うなら、わたしたちは祝福される。……

あなたが人々に神のみ言葉を聞きながら、敵の領土において旅をするとき目にするであろうが、彼は活発に働いている。憐れみの最後のメッセージが人間の唇によって宣布されると同様に、サタンは怒涛のごとく前線に押し寄せようとするであろう。しかし彼はキリストに対して勝利を得ることはできない。わたしたちが彼の欺きの悪について人々に示す真理を提示するとき、彼の怒りがひき起こされ、彼はわたしたちの努力を妨げるために力の限りを尽くすであろう。しかし神があなたの助け主であられることを覚えて、「主はこういわれる」を提示しなさい。……

サタンはかつて天の宮廷において最も栄光に輝いていた天使であった。しかし彼は最高位への願望が彼を支配することを許し、天から追放されてしまった。彼はこの地上に来て、大いなる熱意をもって商売活動に携わり始めた。わたしたちがインマヌエルの君主のそばに忠実に真実に立っていない限り誘惑されてしまうであろう。……

将来、不思議なことが起こるであろう。わたしはあなたが何か起こることに對して、驚くことのないためにこのことを言うのである。わたしたちは主と密接なつながりを保つ必要がある。終わりはわたしたちが始め信じたときよりもっと近いのである。……

サタンの指導の下で、この世を商業紛争へ陥れようと全力を尽くしている者たちがいる。こうしてサタンはこの世を文明化させないような事態をもたらそうと力を尽くしている。彼は間違うには賢すぎる神が定めておられない不思議なことが行われることを見ることを望んでいる。しかし主が、しかし、わたしたちの神が、天と地の支配者になられる。もし男女が彼のご要求を実行するなら、このお方がご自分の神聖な御旨を成し遂げておられる支配者であることがわかるであろう。(手紙 114, 1910年10月27日世界総理A. G. ダニエルスへ)

10月28日

## 子供のよな信仰

「心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。」(マタイ 18:3)

イエスはあなたの最高の友であられる。神の御子に基づく日ごとの信仰によって生きなさい。あなたの行動方針を神がお認めになるようなものにしなさい。そうすればあなたは他人にとって祝福となるであろう。……あなたの幼年期の単純な信仰と信頼を失うことがないようにしなさい。病気のとき、あなたの最初の要望は、「お父さん、お母さん、主がわたしを癒し、わたしの罪を許してくださるよう祈ってください」であった。あなたのために祈りがささげられたとき、あなたは単純な祈りをささげ、このお方が聞き、答えてくださったことを感謝し、完全な信仰と確信をもってあなたは、「わたしは良くなります。主がわたしを祝福されました」と言った。あなたは完全な平安と、あなたの眠りを聖天使たちが守ってくださるとの確信のうちに眠った。

もう一度子供になりなさい。あなたのすべての重荷と悲しみを、疲れた心に休みを与え、困惑した魂に平安を与えることができる唯一のお方に委ねなさい。もしあなたがこの生涯における幸福の尊い秘訣と、どのようにあなたが将来、不死の命を得ることができるかを新たに学びたいなら、あなたは確かにもう一度信頼、服従、愛において子供にならなければならない。もしあなたがただ自分の義務を勇敢に、しかも快活に、神の幸福な子としてなすなら、あなたは他の人々に日の光を反射するであろう。

わたしは知っている者としてあなたに命じる。あなたが幼年期に持っていた単純な信仰をもって、神を見上げて、「父よ、わたしは疲れています。休みを与えてください。わたしの無知をあなたの知恵と、わたしの弱さをあなたの力と、わたしのはかなさをあなたの不朽の力に結び付けてください。生涯の争いであってわたしをあなたの保護する手で防御してください。わたしの歩みを悩ます用心深い敵からわたしをお救いください」と言いなさい。わが子よ、そして信じなさい、そうすればあなたはあなたが期待したよりさらに多くのものに気が付くであろう。

わたしたちの今の唯一の安全は、信仰とよい働きの生涯を送ることである。あなたの天の父はあなたのすべての試練をご存知であられる。このお方はあなたのすべての弱さを良く知っておられる。このお方は必要なときのいと近き助けになられ、このお方はご自分を畏れ愛する者たちに良いものを拒まれることはない。主を畏れることは知識のはじめである。わたしたちの哀れみ深いあがないの主は、ご自分の子供たちが苦しんでいるどんな痛みや悲しみまた苦しみにも決して無関心になられることはない。……

あなたが失うすべて、またあなたが得るすべて、繁栄であろうが逆境であろうが、それがあなたを更に天来の模範であられるイエスに似た者となるようにさせなさい。あなたの子供の信頼を保つことによって、柔和でしとやかな霊の美しさとすばらしさを大切にすることによって、あなたの幸福は確実なものとなる。(手紙 56, 1874年 10月 28日 エドソン・ホワイトへ)

## 御霊に導かれたクリスチャン

「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする。」(詩篇 19:7)

この争闘の時代に、贖い主の自己犠牲のご生涯の光がはっきりとその上に輝いている者のうち多くが、天の原則に調和して生きることをしない。彼らはキリストがなされたより違った表示をすることを望む。多くの者がキリストのような(キリストに似た)原則から離れ去ったので、これらの者たちの感化を阻止するために、わたしたちはキリストの標準を掲げなければならない。真理と義は彼らにとってその完全な意味を失ってしまった。……

聖霊が人間の心の中に働きかけるとき、わたしたちの教会における話において、奉仕において、霊性において今見られているよりもより高い標準が存在するようになるであろう。そしてわたしたちの教会のメンバーたちは生ける水によって新たにされ、働き人たちは一つの頭キリストの下に働きながら、彼らの主人を言葉において、精神において、すべての種類の奉仕において表し、彼らが関係している大いなる終わりの働きにおいて互いに励ましあうであろう。神がご自分のみ子をわたしたちのあがないのために送られたという証を世に担う一致と愛において、健全な増加があるであろう。ぶどうの木の枝の剪定がなされ、多くの実をもたらずであろう。キリストに似た言葉と行いである御霊の尊い実を結ばない枝は、親株から切り取られるであろう。天来の真理は高められ、燃える灯火から輝き出るように、わたしたちはそれをもっと更にもっと深く理解するようになるであろう。

正義のうちに真理を持つ者は、福音の靴をはくのである。彼らの足は平和の福音の備えをはき、足なえが道から外れてしまうような偽りの道を作りはしないのである。

神はすべての者が自由に立ち、み言葉の指示に従うことを要求なさる。すべての行動において、キリストに従う者たちは神を最高に愛し、暗闇の中にいる者たちの道に光と祝福を反射し、落胆している者を慰め、彼らの旅仲間にも苦汁を飲ませる代わりに、苦い水を甘くすることによって隣人を自分を愛するように愛するというクリスチャンの原則への敬意を表すべきである。……わたしたちは純潔で、成長するキリスト教を持つべきである。天の宮廷においてわたしたちはキリストにあって完全と宣言されるべきである。(原稿 83, 1903年 10月 29日「医療伝道の働きにおいてわたしたちの模範であられるキリスト」)

10月30日

## サタンは死んでいない

「わたしが願うのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです。」(ヨハネ 17:15)

サタンは死んでもいないし、麻痺してもいない。そして、彼は徐々に人々の思いが彼の精神を吹き込まれ、また自分がこの最後の時代のための神の働きにおいて責任を担う者たちに敵対して働くのと同様に働くようにと準備するのである。将来においてサタンの最終的な業績は、今までになく多くの力によって成し遂げられるのである。彼は多くのことを学んできており、科学的陰謀が満ち満ちているが、これはヨハネを教育し、教会に与えられるための指示を彼に与えるためにパトモス島に来られたお方の監督下にある働きを効力のないものとするためなのである。……

人々が虚偽に生きるよう導くために、あらゆる天才的な発明が用いられ、可能な限りの手段が駆使されるであろう。それは、真理が神の計画されたとおりのものとなることがないように、すなわち人々を準備させ、聖霊の聖化を通して原則に対して岩のように固くなるようにさせないためである。……

神のみ前に心を低くすることがなく、直く歩まない者たちがいる。彼らは自分の真の目的を隠し、偽りを愛してこれを作り出す墮落した天使たちとの交流を保つのである。敵は、部分的に暗黒のうちにいる者たちを欺くために自分が用いることができる者たちに自分の霊を吹き込むのである。……

「あなたがたは知覚を失って気が遠くなれ、目がくらんで見えなくなれ。あなたがたは酔っ払いよ、しかし酒のゆえではない、よろめけ、しかし濃き酒のゆえではない。主が深い眠りの霊をあなたがたの上にそそぎ、あなたがたの目である預言者を閉じこめ、あなたがたの頭である先見者をおおわれたからである」(イザヤ 29:9, 10)。霊的暗黒が自分たちは誉れを受ける民だと思っている者たちの上にある。彼らの宗教的信仰は聖書に示されている通りである。その影響下にあつて、彼らはまっすぐに歩くことができない。……彼らは科学的陰謀家である。そして、明白な霊的視力のゆえに助けることができたはずであり、またそうすべきであった者たちは自ら欺かれて、悪の働きを支持しているのである。

この終わりの時代の成果は、まもなく決断が下されようとしている。これらの降神術的な欺きは、実際の姿一悪霊のひそかな働き一として暴露されるのであり、それに一役買った者たちは、気が狂ったようになるであろう。(手紙 311, 1905年 10月 30日ダニエルスとプレスコット兄弟と彼らの仲間へ)

## ただ主にあって安んじる

「わたしは、むかし年若かった時も、年老いた今も、正しい人が捨てられ、あるいはその子孫が食物を請いあるくのを見たことがない。」(詩篇 37:25)

あなたが病気で苦しんでいるのでわたしは大いに悲嘆にくれている。しかしあなたが長年の間、愛し仕えてきたお方にしっかりとつかまりなさい。このお方はご自分の命を世に与えられ、ご自分に信頼するすべての者を愛されるのである。このお方は病気の落胆の下に苦しんでいる者たちに同情される。このお方はご自分の愛される者が感じる苦悩のすべての痛みを感じられる。このお方のみ腕のうちにただ休み、このお方があなたの救い主であり、あなたの最高の友であり、このお方は決してあなたを離れず、あなたを捨てられないことを知りなさい。このお方は長年の間あなたの頼りであり、あなたの魂は希望のうちに休むことができる。

あなたはこのお方のうちに信じた他の忠実な者と共に、このお方を勝利の声によって讃美するために出てくるであろう。あなたがするように要求されていることはこのお方の愛のうちに休むことである。心配してはならない。イエスはあなたを愛しておられ、今あなたが弱く苦しんでいる時に、このお方は小さな子供を優しい父親が抱くように、ご自分のみ腕の中にあなたを抱かれる。あなたが信じたお方に信頼しなさい。このお方はあなたの一生を通じてあなたを愛し関心を持って来られたのではなからうか。あなたに与えられた尊いみ約束のうちに休みなさい。

時の始めからの憐れみの偉大なご計画は、すべての悩まされた魂にこのお方の愛に休むようにさせることである。あなたの心が疑いによって苦しめられるとき、現在におけるあなたの安全は、あなたを愛され、あなたの過ちと間違いすべてを許されたあなたの忠実なあがない主としてこのお方を認めることである。……

わたしはあなたに、このお方があなたのすべての罪を許され、ご自身の白い衣をあなたの上に着せられたことを言うように指示された。このお方があなたに今要求されることすべては、このお方の愛に休むことである。このお方はあなたをご自分の保護の下に置かれる。あなたは主イエス・キリストの闘いを戦い、信仰を守り通した。いまや信仰を守り通し救い主のみ名を拒まなかったすべての者に命と不死が与えられるかの日に、義の冠があなたの報いとしてあなたを待っているばかりである。

あなたの頭が曇っていることが、キリストがあなたの尊い救い主ではないという証拠ではない。老齢の子供返りがあなたに訪れている今も、このお方はあなたを他ならぬご自分の子としてご覧になっておられる。……わたしの姉妹よ、キリストの愛のうちに休みなさい。……過去において信仰に固くつかまるようにとあなたを助けられたお方に信頼しなさい。(手紙 299, 1904年10月31日「わたしの親愛なる老いた姉妹」(ヘーア)へ)

## 研究 10

## 清めの特別な働き



## 3. 清めの特別な働き、罪の除去

前回まで、聖所で大祭司キリストが、神の民の罪の除去のために働いておられることを見てきました。サタンの告発の前に、わたしたちがなし得ることは何もありませんが、世のはじめから、キリストが神の右に座して敵を足台とされるまで大祭司として働かれることが定められていました。そして、このお方に前もって自分の罪を持ち出す者に対して、「新しい契約の約束が完全に成就する。『わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない。』『主は言われる、その日その時には、イスラエルのとがを探しても見当らず、ユダの罪を探してもない』(エレミヤ書 31:34; 50:20)」のです(各時代の大争闘下巻 217)。

しかし、この研究のはじめに見ました通り、「キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に(つまり、大祭司キリストが働いておられる間に)、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。」(各時代の争闘下巻 141)。

それでは、彼ら自身の熱心な努力、すなわち地上の民の間でなされるべき働きを見てみましょう。

**3. 清めの特別な働き、罪の除去が地上の神の民の間で行われなければならない(レビ記 23 章、民数記 29:7-11 参照)**

## 清めの特別な働きと理解

神の民がキリストの働きにあずかる方法は、この研究の基調のみ言葉にある通り、いつも同じです。「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大なる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあつて必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる」(各時代の争闘下巻 222)。

み言葉は、清めが理解と共に進み、これに比例することを教えています。

「多くの者は、自分を清め、自分を白くし、……賢い者は悟る(理解する)でしょう」(ダニエル 12:10)。

「わたしはあなたのあかしを深く思う」「わたしはあなたのさとしによって知恵(理解)を得ました。それゆえ、わたしは偽りのすべての道を憎みます」(詩篇 119:99, 104)。

「これらの事柄はこの終わりの時代に無限の重要性を持つ。しかし、『多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。』『しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう。』これは、なんと真実であろうか! 罪は神の律法の違反である。そして神の律法に関する光を受け入れない人々は第一、第二、第三天使のメッセージの宣布を理解しないのである」(牧師への証 115)。

「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ」(ヤコブ 4:8)。

「神の残りの民は、神の戒めを守る者であり、彼らはダニエルによって語られた『多くの者は、自分を清め、自分を白くし』との言葉を理解する。……」(オズ・ボ・タムズ 1899年2月22日)

「理解できないのは、過ちを告白し、捨てることと、十字架を伴う真理を受け入れることに、はなはだ気が進まないゆえである」(イレ・G・ホト 1888年原稿 1712)。

「知恵のある者はだれか。その人にこれらのことを悟らせよ。悟りある者はだれか。その人はこれらのことを理解する。主の道は直く、正しき者はこれを歩む。しかし罪びとはこれにつまずく」(ホセア 14:9 (NIV 英語訳))。

では、理解とは何を意味するのでしょうか？自分は理解していると考えていたユダヤ人にイエスは、「あなたがたは聖書も神の力も知らない」と言われました。理解は、言葉ではなく、経験です。

## 悪を離れることは悟りである

「悪を離れることは悟りである」(ヨブ 28:28)。

「自分を見て賢いと思ってはならない、主を恐れて、悪を離れよ」(箴言 3:7)。

「いつくしみとまことによって、とがはあがなわれる、主を恐れることによって、人は悪を免れる」(箴言 16:6)。

しかし、実際に清めの働きをなさるのはキリストです。その働きは、御座の基礎である主の「いつくしみとまこと」によってなされるのです(詩篇 85:10 参照)。キリストは、人の受けた理解によって、その人のために清めの働きをなすことがおできになるのです。

「彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる」(マラキ 3:3)。

「このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない」(テトス 2:14)。

「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。この働きは、黙示録 14 章のメッセージの中にさらに明瞭に示されている」(各時代の斗争闘下巻 140, 141)。

それでは、地上の聖所の奉仕から、本体である天の聖所で働かれるキリストと、どのように共に働くことができるのか、贖罪の日の奉仕と、日々の奉仕を比較してみましよう。

## 比較：7月10日〔贖罪の日〕に

「七月になって、その月の十日に、あなたがたは身を悩まし、何の仕事もしてはならない。……この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ（祭司が贖罪をなし）、あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである。……」（レビ記 16:29-31）。

「特にその七月の十日は贖罪の日である。あなたがたは聖会を開き身を悩まし、主に火祭をささげなければならない」（レビ記 23:27）。

「またその七月の十日に聖会を開き、かつあなたがたの身を悩まさなければならぬ。なんの仕事もしてはならない。あなたがたは主に燔祭をささげて、香ばしいかおりとしなければならない。すなわち若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊七頭をささげなければならない。これらはみな全きものでなければならない。その素祭には油を混ぜた麦粉をささげなければならない。すなわち雄牛一頭につき一エパの十分の三、雄羊一頭につき十分の二をささげ、また七頭の小羊には一頭ごとに十分の一をささげなければならない。また雄やぎ一頭を罪祭としてささげなければならない。これらは贖罪の罪祭と常燔祭とその素祭、および灌祭のほかのものである」（民数記 29:7-11）。

これは、7月10日の贖罪の日の働きと捧げ物です。では日々の捧げ物については、どのように記されているでしょうか。

## 日々の捧げもの

「また彼らに言いなさい、『あなたがたが主にささぐべき火祭はこれである。すなわち一歳の雄の全き小羊二頭を毎日ささげて常燔祭としなければならない。すなわち一頭の小羊を朝にささげ、一頭の小羊を夕にささげなければならない。また麦粉一エパの十分の一に、砕いて取った油一ヒンの四分の一を混ぜて素祭と

しなければならぬ。これはシナイ山で定められた常燔祭であつて、主に香ばしいかおりとしてささげる火祭である。またその灌祭は小羊一頭について一ヒンの四分の一をささげなければならぬ。すなわち聖所において主のために濃い酒をそそいで灌祭としなければならぬ。夕には他の一頭の小羊をささげなければならぬ。その素祭と灌祭とは朝のものと同じようにし、その小羊を火祭としてささげ、主に香ばしいかおりとしなければならぬ。また安息日には一歳の雄の全き小羊二頭と、麦粉一エパの十分の二に油を混ぜた素祭と、その灌祭とをささげなければならぬ。これは安息日ごとの燔祭であつて、常燔祭とその灌祭に加えらるべきものである」(民数記 28:3-10)。

贖罪の日も、「世の罪を取り除く神の小羊」を象徴する捧げ物は同じですが、その数は完全数である7頭でした。

「わたしはあなたの正しいおきて(裁き)のゆえに、一日に七たびあなたをほめたたえます」(詩篇 119:164)。

## 贖罪の罪祭のほかに

「あなたが祭壇の上にささぐべき物は次のとおりである。すなわち当歳の小羊二頭を毎日絶やすことなくささげなければならぬ。その一頭の小羊は朝にこれをささげ、他の一頭の小羊は夕にこれをささげなければならぬ。一頭の小羊には、つぶして取った油一ヒンの四分の一をまぜた麦粉十分の一エパを添え、また灌祭として、ぶどう酒一ヒンの四分の一を添えなければならぬ。他の一頭の小羊は夕にこれをささげ、朝の素祭および灌祭と同じものをこれに添えてささげ、香ばしいかおりのために主にささげる火祭としなければならぬ。これはあなたがたが代々会見の幕屋の入口で、主の前に絶やすことなく、ささぐべき燔祭である。わたしはその所であなたに会い、あなたと語るであろう。また、その所でわたしはイスラエルの人々に会うであろう。幕屋はわたしの栄光によって聖別されるであろう。わたしは会見の幕屋と祭壇とを聖別するであろう。またアロンとその子たちを聖別し、祭司としてわたしに仕えさせるであろう。わたしはイスラエルの人々のうちに住んで、彼らの神となるであろう。わたしが彼らのうちに住むために、彼ら

をエジプトの国から導き出した彼らの神、主であることを彼らは知るであろう。わたしは彼らの神、主である」(出エジプト記 29:38-46)。

「祭壇の上の火は、そこに燃え続け、それを消してはならない。祭司は朝ごとに、たきぎをその上に燃やし、燔祭をその上に並べ、また酬恩祭の脂肪をその上で焼かなければならない。火は絶えず祭壇の上に燃え続け、それを消してはならない」(レビ記 6:12-13)。

わたしたちはここから、一頭の小羊が一日の夕方に捧げられて一晩中燃え、もう一頭が朝に捧げられて一日中燃えること、またこれが常燔祭、すなわち絶やすことなく、ささぐべき燔祭と呼ばれていることを理解すべきです。この捧げ物は、贖罪の日に続けられました。これらの二頭の小羊のほかに、七頭の小羊が贖罪の日の間に捧げられたのです。

「いと高き者よ、主に感謝し、み名をほめたたえるのは、よいことです。あしたに、あなたのいつくしみをあらわし、夜な夜な、あなたのまことをあらわすために、」(詩篇 92:1-2)。

「ヨブは彼らと呼び寄せて聖別し、朝早く起きて、彼らすべての数にしたがって燔祭をささげた。……ヨブはいつも、このように行った」(ヨブ記 1:5)。

「ケルビムが守っていた楽園の門には、神の栄光があらわれていた。アダムとその子らは、ここに来て神を礼拝した。かつて、神の律法を犯したためにエデンから追放された彼らは、ここで神の律法に従う誓い(創世記 21:28-32 参照)を新たにした」(人類のあけぼの上巻 52)。

誓いについて、創世記 21:28-32 を見ますと、アブラハムはその証拠に小羊 7 頭を捧げました。ちょうど、贖罪の日に捧げる小羊の数と同じです。

「このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う」(詩篇 1:2)。(創世記 6:5 参照)

「すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであ」った人間が(創世記 6:5)、罪を許すキリストの犠牲を仰ぎ、常に目の前に置くならば、その間キリストはその人の清めのために働きを続けてくださいます。そして、その思いでさえ一切の汚れから清められるのです。

## 常燔祭—絶やすことなく、ささぐべき燔祭

「これはあなたがたが……主の前に絶やすことなく、ささぐべき燔祭である」(出エジプト記 29:42)。

「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました」(詩篇 119:11)。

「わたしは常に主をわたしの前に置く」(詩篇 16:8)。

「わたしは常に主をほめまつる。そのさんびはわたしの口に絶えない」(詩篇 34:1)。

「あなたの救を愛する者はつねに「神は大いなるかな」ととなえるように」(詩篇 70:4)。

「しかしわたしは絶えず望みをいだいて、いよいよあなたをほめたたえるでしょう。わたしの口はひねもすあなたの義と、あなたの救とを語るでしょう。わたしはその数を知らないからです。わたしは主なる神の大能のみわざを携えゆき、ただあなたの義のみを、ほめたたえるでしょう。神よ、あなたはわたしを若い時から教えられました。わたしはなお、あなたのくすきみわざを宣べ伝えます。神よ、わたしが年老いて、しらがとなるとも、あなたの力をきたらんとするすべての代に宣べ伝えるまで、わたしを見捨てないでください」(詩篇 71:14-18)。

「けれどもわたしは常にあなたと共にあり、あなたはわたしの右の手を保たれる」(詩篇 73:23)。

(50 ページの続き)

は救い主がどうなさるかを見ようと見張っていました。

ある安息日、キリストとその弟子たちは宮から帰るとき、麦畑を通過しました。もう時間も遅かったので、弟子たちは、お腹がすいていました。そこで彼らは麦の穂のいくつかをつみ取って、それらを自分たちの手の中でこすり、そして穀粒(こくつぶ)を食べました。

他の日でしたら、畑や果樹園を通過する人が食べたいものをつみ取るのは認められていました。しかし安息日にはそうではありませんでした。キリストの敵たちは、弟子たちがしていることを見て、救い主に言いました。

「ごらんなさい、あなたの弟子たちが安息日にしてはならないことをしています」(マタイ 12:2)。

しかし、キリストはご自分に従う人々を弁護(べんご) なさいました。このお方は、告発者(こくはつしゃ) たちにダビデのことを思い出させました。彼は、必要な時に、幕屋の神聖なパンを食べ、そしてそれを自分の飢えた従者に与えました。

もしダビデが飢えた時に神聖なパンを食べたのが正しいのであれば、弟子たちが飢えたときに、安息日の神聖な時間に麦をつみ取るのは正しくないのでしょうか？

安息日は人の重荷となるために造られたものではありません。それは人に益となるため、つまり平和と休みを与えるためでした。したがって、わたしたちの主は言われました。「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない」(マルコ 2:27)。

## キャロブ・バー

### ■材料

- ・ ココナッツオイル 大さじ 8
- ・ アーモンドバター 大さじ 8
- ・ 粗糖 1/2 カップ
- ・ キャロブパウダー 大さじ 5
- ・ はちみつ 小さじ 9
- ・ バニラ 小さじ 1/2
- ・ お好みのナッツ (砕く) 1/2 カップ

### ■作り方

1. ココナッツオイルとアーモンドバターを煮溶かします。
2. キャロブパウダー (ふるいにかけての方が仕上がりがなめらかです) に粗糖を入れて、よく混ぜます。
3. 残りの材料の中をすべて鍋に入れて、よく混ぜます。
4. 少し、固まるまで混ぜ続け、火からおろします。
5. はちみつとバニラを入れてよく混ぜます。
6. 混ぜたものを容器に入れて、冷まします。

キャロブ (いなご豆) とはちみつはよく合います (マタイ 3:4 ご参照)。

カフェインフリーで栄養豊かな手作りお菓子は、いかがでしょうか。

※キャロブパウダーは、自然食のお店で買うことができます。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。



## 書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

## 第20話 安息日の遵守(1)

遵守=じゅんしゅ:守り、従うこと

救い主は安息日を守られ、そしてご自分の弟子たちにそれを守るようにお教えになりました。このお方はそれをどのように守るべきかをご存じでした。なぜなら、このお方で自身がそれを聖なるものとされたからです。

聖書は「安息日を覚えて、これを聖とせよ」「七日目はあなたの神、主の安息日である…主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた」と述べています(出エジプト 20:8, 10, 11)。キリストはこの世を創造することにおいてご自分の御父とともに働かれました。そしてこのお方が安息日をお造りになりました。聖書に「すべてのものは彼によってできた」と書いてあります(ヨハネ 1:3)。

太陽や星、木や美しい花を見るとき、わたしたちはキリストがこれらすべてを造られたことを覚えるべきです。このお方はわたしたちがこのお方の愛と力を思いにとどめておくのを助けるために安息日をお造りになりました。

ユダヤの教師たちは安息日を守る方法について多くの規則を作りました。そして彼らはすべての人が自分たちの規則に従わせたいと思っていました。そこで、彼ら

